

月影



第39号

いちじゅう ちち
一重くんでは父のため
にじゅう はは
二重くんでは母のため
さんじゅう ふるさと
三重くんでは故郷の
きょうだい わがみ えこう
兄弟我身と回向して

さいのかわらじぞうわさん
賽ノ河原地蔵和讃



おさなご な
幼子は亡くなる
さんず かわ しも ほう
三途の川の下の方
さいのかわら あつ
賽ノ河原に集まって

かな おも
こんなに早く逝ってしまい
悲しい思いをさせてごめんねと

かわら いし と あつ
河原の石を取り集め
ひと っ ちち おも
一つ積んでは父を思い
ふた っ はは おも
二つ積んでは母を思い
みつ っ ふるさと おも
三つ積んでは故郷を思う

じぞう
お地蔵さんは
こ
そんな子たちを
なぐさ はげ みまも
慰め励まし見守って
こ
子どもたちの親代わり

お経の話

何が書いてあるの？

じょうどしゅうせいざんぎょうしき

あかほん

浄土宗 西山勤行式 (赤本) 解説

そうえこう

総回向

がんにしくどく

願以此功德

どうほつぼだいしん

同発菩提心

びょうどうせいいつさい

平等施一切

おうじょうあんらくこく

往生安楽国

訳) 願わくは、これまで修めてきたお念仏

をはじめとするさまざまな功德によつ

て、すべての人々が平等にその利益を

受け、共に極楽往生の志を発して、阿

弥陀如来の極楽浄土に往生しますよう

に。

私たちの宗派は、阿弥陀さまの御名を唱え、お念仏によって、極楽浄土へ往生させていただくことができるという教えです。

だから、私たちの心には、常に阿弥陀さまの影が宿り、いつも慈しみの心で満ちています。

他人を見る時は、仏の眼をもって見、他人と接する時は、慈悲の心をもって接する。他人の心配を自分の心配とし、他人の苦しみを自分の苦しみとする。また、自分の楽しみは、他人に与えて共に喜びを分かち合う。

そして、私たちはお経を読むという大きな功德を積んだ時は、この功德を自分だけのものにしないで、一切の人々、また、この世に生きるたくさんの方々の生き物に至るまで、区別なく平等に施し与え、共に菩提心をおこして、極楽浄土へ往生することを願うのです。

総回向とは、このような願いを心に持ちながら、高らかに唱えることが大切なのです。

仏事と作法くお盆く

一年に一度、お盆の時期、ご先祖さまたちは、あの世から、住み慣れた懐かしい我が家へもどって来られます。家族みんなでお迎えしましょう。

お墓参り（七日盆）

七日。お盆を迎える準備です。お墓の掃除をし、墓前と本堂でお経をあげます。

精霊棚（しゅうりょうだな）

お仏壇の前に机やテーブルを置き（精霊棚）、その上にお供えものをのせます。

蓮の葉の上などに、野菜や果物、そうめん、また故人の好物などを供えます。本来は、お盆中の朝昼晩のメニューが決められています。

迎え火（むかえび）

十三日。家の前で、おがら（麻の茎）やワラなどを焚いて、ご先祖さまを迎えます。この火が迎え火です。ご先祖さまは、この火や煙を目印にして家に帰って来られます。

キュウリの馬で

早く帰って来られ帰りはナスの牛に乗ってゆっくりとお浄土へ戻られます。



棚経（たなぎょう）

お盆の期間中に、仏壇前の精霊棚で、お寺の住職さんにお経をあげてもらうことを棚経と言います。

棚経の棚は、精霊棚の棚のことです。

送り火（おくりび）

十六日。再び家の前で送り火を焚き、お浄土へ無事に帰ることができるようにと、ご先祖さまの足もとを明るく照らします。

「精霊流し」や「燈籠流し」、そして、京都大文字の送り火も、「送り火」の一つです。

お施餓鬼（おせがき）

十六日。常林院本堂で、組寺五人の僧侶が集い、ご先祖供養のお施餓鬼法要を勤めます。

お盆最後の日、ご先祖さまを再びお浄土へお送りします。来年もどうぞ帰って来て下さいという気持ちを含めて。

松原玉野十三回忌法要厳修

六月十二日。先々代住職、松原玄英の内室、松原玉野の十三回忌法要を勤めました。

観音講様に、御詠歌をあげていただき、その後、牛ヶ瀬の称讚寺御住職をお導師に迎えて、組寺寺院に読経していただきました。

総代様、観音講様にも参列、お焼香をしていただき、無事、法要を終えることができました。

お寺の奥様のことを、坊守（ぼうもり）と言いますが、まさに、その名の通り、住職玄英を支え、七十年という長い間、常林院を守り続けました。

雑記抄

くご縁深まりく

七月七日。京都駅から特急サンダーバードに乗り、福井の安泰寺（あんたいじ）さんに行きました。

安泰寺さんで勤められる、お盆のお施餓鬼法要の後に、お説教の機会をいただきました。

京都の盆施餓鬼は八月に行われますが、福井や関東では七月におこなわれます。

前号で記しましたが、四月に本山永観堂で行われた法然上人八百回大遠忌中、福井の檀信徒さんに法話をさせてい



いただきました。安泰寺さんも参拝されておられ、その時のご縁で、今回、安泰寺ご住職から再び、お話しをする機会を与えていただきました。

当日は、あいにく朝から一日中、雨が降っていました。そんな足もとが悪い中、お寺にお集まりになった檀信徒さん。メモをするお方、うなずきながら聴くお方、質問をされるお方など、熱心に話を聴いてくださいました。

福井とのご縁がまた深まったように思えました。

平成二十三年七月二十日発行

浄土宗西山禅林寺派

常林院